

## 茅ヶ崎市が求める市民後見人像について

## 1. 茅ヶ崎市が養成する市民後見人としての要件等について

- ①茅ヶ崎市が茅ヶ崎市社会福祉協議会と連携して実施する養成研修を修了し、成年後見制度をはじめとする高齢者や障がい者の権利擁護事業、地域福祉に関する事業について、幅広い知識を身につけている人であること。
- ②茅ヶ崎市社会福祉協議会を中心とした成年後見制度に関わる関係機関の支援のもと成年後見制度の主要な業務である財産管理及び身上保護を担い、特に本人の意思決定の尊重に重点を置いて、本人の地域生活を支援する。生活の本拠に関わらず、生活の質を高められるよう本人の意向を汲み取っていくことができる人であること。
- ③成年後見活動に当たっては、市内13地区で展開されている様々な高齢者福祉施策、障がい者福祉施策、地域福祉活動との連携を図りながら、本人の地域生活を支援し、地域福祉を推進することができる人であること。
- ④市民後見人としての活動が、市民の権利擁護の意識の醸成に大きく関わっていることを常に意識して活動することができる人であること。

## 2. 市民後見人の担う役割のイメージ

|          | 専門職後見人                | 法人後見人                            | 市民後見人                                  | 親族後見人                   |
|----------|-----------------------|----------------------------------|----------------------------------------|-------------------------|
| 主な担い手    | 弁護士、司法書士、社会福祉士、行政書士など | 社会福祉協議会、社会福祉法人、NPO法人など           | 市民後見人養成研修を修了した市民                       | 本人の家族・親族                |
| 役割の強み    | 専門的な知識を活かし、適切で公正な支援   | 法人としての強みを生かし、継続的・安定的で専門知識を活かした支援 | 本人と同じ地域で暮らす市民の視点で、本人に寄り添ったきめ細やかな日常的な支援 | 本人との関係性を活かし、生活状況に合わせた支援 |
| 受任ケースの特徴 | 専門的な知識の必要性が高い         | 長期に渡る継続的な支援、専門的な知識が必要            | 管理する財産が少なく、生活課題が比較的容易である               | 本人の家族・親族による日常的な支援が必要    |

## 3. 市民後見人の活動・就任形態

